

タンソクタルマワシ *Phronima colletti* Bovallius, 1887 は、会報 90 号 p 1 で紹介した清水区三保の真崎海岸漂着物調査で記録したタルマワシ科 3 種のうちの一種で、3 月 20 日 9 時頃にオス 2 個体を生きたまま採集しました。Vinogradov et al. (1996) によれば、本種の体長はメスで 6.5-18 mm、オスで 6.3-8.5 mm の大きさで、今回採集されたオス個体も 8 mm ほどで、オオタルマワシと比べるとかなり小さく感じます。

採集した個体は以下の特徴により、他種と識別できます。

1. 第 7 胸節が、第 1 腹節より長い (写真 1, *P. stebbingi* と *P. dunbari* との識別)
2. 第 5 胸肢腕節幅が広い (写真 3, *P. sedentaria* オオタルマワシとの識別)
3. 第 3 胸肢が第 5 胸肢よりも長い (写真 2, *P. atlantica* アシナガタルマワシと *P. solitaria* との識別)
4. 長節の幅と長さがほぼ等しい (写真 3, *P. pacifica* との識別)
5. 腕節遠位縁内側突起の特徴 (*P. pacifica* との識別)
6. 第 1 鰓が小さい (*P. bucephala* と *P. bowmani* との識別)

本種は、大西洋、太平洋、インド洋および地中海の熱帯域に分布しますが (Vinogradov et al. ,1996)、相模湾で 7 月にプランクトンネットで採集された記録もあります (森ほか, 2010)。

生きた個体を海水に入れ、泳ぐ様子を観察したところ、オオタルマワシ同様に長い胸肢はほとんど使わず、胸肢を広げ、腹肢のみで移動する様子が見られました。その速度は遅く、泳ぐのはうまくないようです。他のタルマワシ科も同様ですが、このような移動能力で世界中の海洋や地中海に分布を広げられたことが不思議に思えます。



写真 1. タンソクタルマワシ♂ 外部形態

写真 2. 頭・胸部右側面



写真 3. 第 5 胸肢

写真 4. 腹肢を使い泳ぐ様子：背後にオオガリズキンウミノミが泳ぐ

引用文献

森 美由貴・鈴木夕紀・山巻明香・Lindsay Dhugal. J (2010) 日本周辺海域における端脚目クラゲノミ亜目全出現リスト, 日本プランクトン学会誌, 57, 1: 41-54.

Vinogradov, M. E., Volkov, A. F., & Semenova, T. (1996) Hyperiid amphipods (Amphipoda, Hyperiidea) of the world oceans. Science Publishers, Lebanon, 632 pp.